

山里に残る

# 伝統の祭り

冬祭り  
掛踊り  
ブサ祭り

## 「国の重要無形民俗文化財」

### 勇壮な湯立て神楽

#### ●冬祭り 1月4日 大森山諏訪神社

今も伝わる壮大な祭り。  
人は神とともに  
長い歴史を紡いできた。  
坂部地区そのものが伝統である。



坂部に伝わった『熊谷家伝記』によれば、正長元年（1428）に始まったと伝えられています。面形の舞が行われる点では、奥三河の「花祭り」と源流を一にしているように見受けられます。火の粉を散らす「たいきり面」をはじめとして、その面には歴史の凄味が感じられます。

### 冬祭りの起源

左閑辺開郷の祖、熊谷旦甲貞直から三代目の孫治朗直吉が現在地に移築した夜、かの木曾義仲と諏訪光盛と名乗る老翁が夢に現われ、能を舞い「諏訪の姿は蛇身と云えども心は弥陀の慈悲と知れ」と繰り返し謡い舞う夢を見た。これは吉事ならんと老臣船田孫右工門に夢占いをさせたところ、「今からして神楽を始め候はば子孫繁昌、当郷末永く成就すべし」とのことと、正長二年（一四二九）から神楽を執行したと伝えられている。

## 冬祭りの流れ

- 一、こいとり淵（天竜川と虫川の合流地点）で身を清める。
- 二、御練り 末社下の森（火王社）から出発する。
- 三、宿入れ 伊勢音頭。願人踊りを行う。
- 四、大森山諏訪社古例式典

- |    |              |  |
|----|--------------|--|
| 1  | 袂式           | 祓祝詞。献饌。祝詞奉上。玉串   |
| 2  | 御扉           | 実戸比羅   |
| 3  | 浦安の舞         | 扇の舞 矛の舞  |
| 4  | 座固           | 佐加太目   |
| 5  | 注連引          | 歌神楽  |
| 6  | 御供渡し         | 歌神楽  |
| 7  | 大庭酒          | 御神酒。食事披露 祭事に携わる者舞殿 一般者は食堂  |
| 8  | 順の舞          | 四人で舞う  |
| 9  | 申し上げ         | 歌神楽  |
| 10 | 釜洗い          | 湯立の釜を清める歌神楽  |
| 11 | 湯洗い          | 御釜の御湯を清め直す儀式   |
| 12 | 花の舞          | （大神宮の舞）童子四人<br>一、上衣 二、花笠 三、やちこ 四、湯桶 五、大根 六、餅 七、花 八、花返し   |
| 13 | 大神宮御湯        | 最初の湯立が始まる<br>此の時神子の者は白衣を着て湯釜の廻りで歌神楽を唱い乍ら湯立をする  |
| 14 | 火の神の御湯立      | 終わると本舞云って大人が四人でそれぞれの持ち物を替えて舞う  |
| 15 | 神楽神の湯立       | 舞四立 前と同じ   |
| 16 | 津島神御湯立       | 舞四立<br>此の神の湯立には神子八名は小笹を持って風邪の神を追い払う湯立で、尚風邪の神に願を掛けた家では、中折二枚を出して御帛を切って風邪の神を追い払う儀式がある                                 |
| 17 | 切替え          | （申し上げ）<br>此の時清浄した四人の神子は末社の下の森へ鬼迎えに行くのである。又、迎方は到着すると火の神を大祓する為太鼓の上に休まるのでかたたく舞と云い、又格別なる元気な舞である                        |
| 18 | 湯板           | 御釜の御湯を扱う ここで天狗祭りを行う  |
| 19 | 東方浅間神の湯立     | 舞四立  |
| 20 | 諏訪神社の湯立      | （御内の湯とも云う）   |
| 21 | たい切り面        | 之より愈々本番の鬼舞が始まる。此の鬼は、大きな松明を切り、舞堂一ぱいに炎が拡がり奇抜の舞である。   |
| 22 | 獅子舞          | さすが大獅子 舞堂一ぱいに舞い、之を見物人が一斉にはやすのである   |
| 23 | 鬼神面          | 赤鬼の舞で途中禰宜との問答がある   |
| 24 | 天公鬼面         | 同じく赤鬼で途中禰宜との問答がある  |
| 25 | 青公鬼面         | 之は青鬼で静かな鬼である   |
| 26 | 水の王神         | 此の神様は煮立って居る御湯を静めて、御湯を観衆に掛ける。これが掛かった方は一年中無病である云う秘密がある。  |
| 27 | 火の王神         | 此の神様が現れると水の神と反対に御湯がぐらぐらと煮立つのである。   |
| 28 | 翁の面          | 途中で禰宜との問答があり、聞いて居るとさながら翁で昔話をする面白さがある   |
| 29 | 日月女郎面        | （てらぼことも云う）<br>似合わぬ夫婦が舞うのである  |
| 30 | 海道下り         | 禰宜の老夫婦が街道を降りて褒美をもらって、之で餅を搗いて諸神を祭るのである  |
| 31 | 魚釣り          | 三人の獵師が豊猟を祝って四方の恵比寿を祭る場面である   |
| 32 | 八坂神の御湯立ちと舞四立 |  |
| 33 | 神妻神の御湯立ちと舞四立 |  |
| 34 | 面形送り         | （鬼を送る）   |
| 35 | 止場           | 歌神楽<br>此の時氏神へ大願をかけた方は歌ぐらを唱えて願果きをする事も出来る<br>又、家清めと云う願を掛けた家庭では此の釜の御湯を持って行って祭事を行う場合もある<br>歌ぐらと別に舞もある<br>之にて全部の祭事が終了する |
| 36 | 火伏せ          |  |



## 「国選択無形民俗文化財」

### 古き伝承の盆行事

#### ●掛踊り 8月14日

堂の庭（熊谷山長楽寺）

八幡森下の金毘羅様の庭

- 寛政元年酉の年（1789年）6月、7日7夜にわたる細引き雨により坂部本村の上方に地割れが生じた時の雨止めの願掛踊りであったといわれる。
- 掛踊りは古くは7月10日に行われたが、今は8月14日行われる。
- 堂の庭（熊谷山長楽寺）と八幡森下の金毘羅様の庭で踊る。明治四十年頃までは大河内や向方と同様、新盆の家でも踊ったといわれる。



## 熊谷家の氏神八幡神社に伝わる弓神事

### ●ブサ祭り

#### 4月酉の日 八幡森

- 『熊谷家伝記』によると  
ブサマツリは、現在は4月の、酉の日が2度あるときは初めの酉、3度あるときは中の酉におこなわれる。  
旧暦3月酉の日を祭日としたのは「当国之大祭り梅干野之祭り」（諏訪大社の御頭祭か）にならったからでも、もとは宇野比にかけての7日間の祭りだった。  
百張あまりも射手を集めてにぎわったが、しだいに弓がすたれ、博打がさかんで喧嘩が絶えないので、享保年間（1716～1735）に2日間に短縮したという。  
『伊那民俗学研究報』より

